

令和7年 川崎町議会定例会 12月会議のご案内

開催日 12月2日(火)～12月5日(金)
開催場所 川崎町役場 議場(3階)

◆第1日目 12月2日(火) 午前10時

- ・再開
- ・町長あいさつと行政報告
- ・議員派遣の件
- ・所管事務調査報告

◆第2日目 12月3日(水) 午前10時

- ・追跡質問
 - ・一般質問
- ①佐藤 昭光 議員 ②大本 治久 議員 ③下斗米 麻子 議員

◆第3日目 12月4日(木) 午前10時

- ・一般質問
- ④佐藤 清隆 議員 ⑤的場 要 議員 ⑥佐々木 昭雄 議員

◆第4日目 12月5日(金) 午前10時

- ・条例改正 一般職の職員の給与に関する条例の一部改正
- ・補正予算 令和7年度一般会計補正予算(ほか1件)
- ・閉会

問い合わせ先 議会事務局
(電話 84-2301)

町政を問う 6人の議員が質問

一般質問要旨

通告第1号 佐藤 昭光 議員

1) スーパー出店

川崎小学校の西坂下で、令和8年1月下旬にスーパーが新規開店すると新聞チラシの折り込みがあった。待望している町民も多い。そこで次の点を伺う。

①先のスーパーが撤退してから11カ月ぶりとなる。なかなか決まらないために、議員から「補助金を出したら」と要望があった。優遇措置は考え、実行したのか。

②町中心部に無くなつた鮮魚店を望む声が多い。事業所はどんな考えでいるのか。

2) 最低賃金の改定

①最低賃金の改定があり、宮城県は10月4日発効で前年から65円アップして1,038円と大台1,000円を超えた。当町の実情を伺う。

②東京の1,226円を筆頭に大都市が軒並み高賃金で、物価高や人口流出の懸念から地方では国の目安にさらに上乗せするケースが多い。町の実態から不安が先に立つことはないのか。中小業者の反応は。

通告第2号 大本 治久 議員

1) スマートフォン・ゲーム依存から子どもを守る取り組みについて

近年、スマートフォンやゲーム機の長時間使用が、子どもの睡眠不足や生活リズムの乱れ、集中力や学習意欲の低下などに影響を及ぼしていると指摘されている。

スマートフォンは子どもにとって身近な存在であり、依存症となれば医療的支援が必要となるが、その前段階である「依存予備軍」を減らすことが極めて重要である。そこで次の点を伺う。

①児童・生徒のスマートフォンやゲームの利用実態、特に「使用時間」「就寝時刻」「生活リズム」などについて、独自の調査や把握を行っているか。

②町内の学校や保護者または相談機関において、スマートフォン・ゲーム依存に関する相談やトラブルの報告はどの程度あるのか。

③町として、スマートフォン・ゲームの長時間使用による健康・教育上の影響をどのように認識しているか。

☆議会生中継配信☆



インターネットによるライブ中継が視聴できます。

左のQRコードまたは町のホームページよりご覧ください。

通告第3号 下斗米 麻子 議員

1) 高齢者の投票支援について

国政選挙・地方選挙における有権者の投票形態等について、次の点を伺う。

- ①令和6年度以降の国政選挙では期日前投票が当日投票を4%ほど上回り、期日前投票が増加している。仕事や家庭の都合に合わせ投票できるほか、高齢者など移動が難しい人にとっても利用しやすくなっている。今後、期日前投票が増えていくと思うが、70代以上の方々がさらに投票しやすい移動投票所などを設ける考えはあるか。
- ②高齢者の方々からは、各投票所に入る際に靴を脱ぐのが大変という意見がある。今後、土足のまま投票できるような対応変更の考えはあるか。また、投票行動そのものを支援する取り組みの考えはあるか。
- ③当町には複数の高齢者施設が存在しているが、不在者投票を実施している施設は川崎病院・こころ病院・みどりの園の3カ所だけとなっている。政治的関心が高齢者ほど高いにも関わらず、貴重な投票機会が奪われていないかと危惧している。今後、実施施設の拡充等の考えはあるか。

通告第4号 佐藤 清隆 議員

1) J-クレジット制度の推進を

2050年カーボンニュートラルに向けた取り組みが進むなか、当町もゼロカーボンシティを宣言し、さまざまな施策を行っている。

国内では環境、農林水産、経済産業の3省によるJ-クレジット制度が2013年から運用されており、省エネルギー設備の導入や、再生可能エネルギー利用によるCO₂などの排出削減、適切な森林管理や農業での取り組みによる温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証し、そのクレジットを他の企業に販売することで資金循環ができる仕組みとなっている。そこで次の点を伺う。

- ①J-クレジット制度について当町はどう受け止めているのか。
- ②町内の森林から吸収するCO₂をJ-クレジットとして販売する考えは。
- ③稻作農家の新たな環境保全収入として、水田の中干し期間延長によるJ-クレジットの推進は。

裏面へ続く

通告第5号 的場 要 議員

1) 消防団組織について

川崎町消防団は「自分の町は自分たちで守る」という精神に基づき、自分たちの手で地域や家族、そして仲間を守るために団結した、地域防災の中核を担う組織として活動している。

しかし、人口減少等の影響もあり、消防団員の減少が続いている状況である。そのため、数年前から班の定数に達しないところも増え、本来の機能や活動が困難な班も出てきた。これまで何度か話題になった「統合」について、しっかり検討する時期になってきたと考える。最終的には消防団が判断することになるが、現状と今後の動向を踏まえ執行部からの提案も必要になると考えるがいかがか。

また、これまで寒い時期や夜間での活動には、法被用の防寒着を着用してきた。県内含め、他自治体では活動服に合わせた防水性・視認性の高い防寒着を採用している。

今後の消防力低下を防ぐためには、組織の縮充と団員への装備サポートも必要であると考えるがいかがか。

通告第6号 佐々木 昭雄 議員

1) みちのく公園前の農地を宅地開発しては

当町の魅力は何といっても蔵王の山並みが最高に美しく望める点にあり、多くの素晴らしい景観を有していることである。また、東北唯一の国営公園である「みちのく杜の湖畔公園」を擁する町として、その存在は地域の大きな財産だと考える。そこで次の点を伺う。

- ①現在、検討されている龍雲寺前の農地約120ヘクタールの整備事業のうち、みちのく公園側に位置する約40ヘクタール（全体の約3分の1）を宅地開発することはできないか。
- ②蔵王の山並みを眺望できる魅力的な地域を対象とした宅地開発の可能性について、地域住民や地主に意向を聞く検討会や意見交換の場を設けられるか伺う。

2) 小学校卒業式における服装のガイドラインを検討してはどうか

近年、小学校の卒業式において、袴姿で出席する児童を多く見る。華やかで記念に残るという一方で、袴の着付けや髪のセット、履物の準備などに相当の費用がかかるところから、経済的な負担感を抱く家庭もある。そこで次の点を伺う。

- ①卒業式における服装の在り方、特に袴着用の是非について、保護者・PTA・学校関係者・そして教育委員会を交えて幅広く議論し、全ての子どもが安心して卒業式に臨めるよう、共通理解やガイドラインを検討すべきと考えるがいかがか。
- ②袴を希望する家庭には、式典以外で思い出を残す方法を提案・周知するなど、多様な祝い方を尊重する取り組みも有効と考えるがいかがか。

傍聴に手続きは必要ありません。どうぞお気軽にお越し下さい。

川崎町議会議長 眞壁 範幸